

授業科目名・形態	地域福祉論Ⅱ 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	山田克宏・高木さひろ	実務経験の有無	有	開講期	3年前期

【授業の主題】

2000年社会福祉法改正から地域福祉のメインストリーム化が進んでいる。本講は、地域福祉課題の解決のために必要な地域福祉の理論・政策・実践・技術を、体系的に習得することを目的とする。これらを体系的に学ぶことにより、制度横断的な支援方法を身に付けることができる。具体的には、地域福祉におけるネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域包括ケアシステム、サービスの評価方法等について、地域福祉計画の推進方法やコミュニティ資源を生かした事例、視覚教材を用いながら学習する。また、地域共生社会の実現に向けた取り組みを学ぶ。

【到達目標】

- 1) 地域福祉の歴史について特徴を説明できる。
- 2) コミュニティソーシャルワーカーの役割について、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係から説明できる。
- 3) 地域福祉における社会資源の活用と開発の技術について、状況設定場面から適応できる。
- 4) 福祉課題解決の手法を計画できる初歩的な力を習得する。
- 5) 地域トータルケアシステムについて、社会的背景・理論的背景から確認できる。
- 6) 地域福祉の支援体制のあり方について説明できる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 地域福祉の歴史(社会福祉法の改正)
- 第 2回 コミュニティソーシャルワークの考え方と展開
- 第 3回 多職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク(保健・医療・福祉に関わるネットワーク)
- 第 4回 地域を基盤としたソーシャルワーク(コミュニティソーシャルワーク)
- 第 5回 ソーシャルサポートネットワークの考え方
- 第 6回 地域における社会資源の活用と開発
- 第 7回 地域におけるアウトリーチの意義
- 第 8回 地域における福祉ニーズの把握方法(質的、量的な福祉ニーズ)
- 第 9回 地域トータルケアの必要性和考え方(地域包括ケア)
- 第10回 包括的支援体制(地域共生社会の実現に向けた各種施策)
- 第11回 福祉サービスの評価の背景と評価の考え方(社会福祉事業を評価)
- 第12回 福祉サービスの評価方法と実際
- 第13回 災害と地域福祉
- 第14回 海外の地域福祉(イギリスとアメリカにおけるコミュニティ政策)
- 第15回 住民主体の地域福祉の推進

【授業実施方法】

講義形式(視覚教材も適宜活用する)。

【授業準備】

2年時に学んだ地域福祉論Ⅰを復習するとともに、講義中に指摘する問題について調べ学習を行っていくこと。

【主な関連する科目】

公的扶助論、現代社会と福祉、社会福祉概論Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ、日常生活支援技術Ⅹ

【教科書等】

社会福祉士養成講座編集委員会編：地域福祉の理論と方法(第3版)、中央法規、2015。

【参考文献】

岩田正美：社会的排除、有斐閣、2008年、右田紀久恵・高澤武司・古川孝順：社会福祉の歴史、有斐閣、1977年、上野谷加代子・原田正樹：地域福祉をデザインする、有斐閣、2016年、白澤政和：地域のネットワークづくりの方法、中央法規、2013年、高橋信行・久木元司：福祉実践と地域社会、ナカニシヤ出版、都築光一編：現代の地域福祉、建帛社、2020年、渡邊洋一：コミュニティケア研究、相川書房、2000。

【成績評価方法】

授業態度20%、レポート20%(7回目に課題提示)、期末試験(筆記中心)60%により評価する。60%以上の得点を合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

私は、居宅介護支援事業所でケアマネジメント業務だけでなく、社会資源作りもおこなってきた。また、社会活動としては、地域福祉計画推進会議委員として地域福祉計画の進捗現況等に関して把握をしてきた。そのような経験を活かした講義の展開とする。

【学生へのメッセージ】

地域福祉活動は、みなさんの生活の場での実践です。自分にとって身近な地域における生活問題をと結び付けながら学習していこう。